

稲門やまと

発行所 早稲田大学大和稲門会
 発行人 会長 宮崎 顕
 事務局長 小澤 重晴
 〒242-0007 大和市中央林間 2-16-35
 TEL・FAX 046-276-8841
 編集人 児浦義文、小澤重晴、村岡猛、
 加藤晴夫

早稲田大学大和稲門会会報第43号

会長挨拶

宮崎 顕 (S42 法学部卒)

☆☆ コロナ禍の稲門活動 ☆☆

—— 各種活動の中止は残念 ——

—— 健康に留意して収束後の再活動に期待する ——



大和稲門会の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。

日頃より大和稲門会の活動にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。

2020年は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大で東京オリンピックの延期、学校の一時閉鎖、外出自粛などこれまでに経験したことの無い大変な一年でした。今年になっても感染拡大は収まることなく、重篤者も増加し、ついには再度の緊急事態宣言が出されるにいたりしました。

大和稲門会においても総会を始め各種行事の中止で、殆ど活動することができませんでした。2019年に創立25周年を迎え「25周年記念誌」を刊行し、これからは課題の会員獲得活動を始めとし当会発展のための活動を始めようという矢先に、各種活動を中止せざるを得なくなりましたことは大変残念な思いです。

このような状況下でしたが編集委員の努力により「稲門やまと第43号」を作成し、この度皆様のお手元にお届けすることができました。新しい年度を迎えてもコロナ禍の厳しい状況は変わりませんが、ワクチン接種が始まるなど、少しずつですが光明が見えていることに期待しているところであります。

会員の皆様には引続き健康には十分気を付けていただくとともに、コロナ騒ぎが収まり皆様方と共に例年通りの活動が出来ますことを祈っています。

コロナ禍における大和稲門会の活動近況

事務局より

2020年4月3日早稲田大学校友会本部から、新型コロナの感染拡大の影響を考慮して「稲門会活動の自粛」要請を受けて以来、その後も3度にわたる自粛期間の延長要請を受け、目下の自粛期間は2021年5月末までとされています。

係る状況の下、当大和稲門会の多くの行事・イベント及び同好会活動は自粛又は中止となりました。

☆中止となった行事・イベント

- R2.10.1 稲門やまと43号の発行中止
- R2.10.24 稲門祭中止
- R2.11.7 県支部大会(藤沢稲門会主管)中止
- R2.11.14 大和稲門会総会・懇親会は中止し、書面審議とした。
- R3.1.2~3 箱根駅伝の沿道応援は中止

☆感染対策を行ったうえで実施した行事・イベント

- R2.11.19 2020年秋のゴルフ大会(東名厚木CC)
- R2.11.20 2020年秋のハイキング(綾瀬市内の名所、旧跡巡り)
- R2.10.2 幹事会(シリウス6F会議室)
- R3.1.28 幹事会(リモート会議)

☆第27回(令和2年度)大和稲門会総会(書面審議)の報告

第27回総会は、当初令和2年11月14日、横浜うかい亭にて開催を予定しておりましたが新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、講演会・懇親会は中止し、総会議事は対面方式に代わって書面審議としました。書面表決の結果全ての議案は賛成多数で可決されました。

なお詳細は、ホームページ上に掲載しております。

早稲田大学の現状と早稲田スポーツ各部の活躍状況

会員の皆さんは大学のホームページや広報誌「西北の風」等でご存じの方もおられるかと思いますが、コロナ禍での母校の現状や早稲田スポーツ各部の最近の活躍について取りまとめてみました。

☆大学の状況

コロナ禍の中で、2020年3月の卒業式4月の入学式は9月に延期され、代表者のみが出席し大隈講堂で開催。

2020年授業は殆どオンライン授業であったが、2021年新学期の授業から対面授業：リモート授業は7：3となる見込み。

2021年卒業式、入学式

卒業式は3/25,26日の2日間にわたり、全学部を6グループに分け早稲田アリーナで実施。入学式は4/1,2日の2日間にわたり、卒業式と同様の方法で実施予定。但し、出席は卒業生、新入生に限定。

☆早稲田スポーツの現状

- 野球 東京六大学野球2020年秋季リーグ戦は早慶戦に連勝し、2015年秋以降10季ぶり46回目の優勝を果たす。
- ラグビー 2020年大学選手権は、決勝で宿敵明治を破り11年ぶり16回目の大学日本一を獲得。2021年は、決勝で天理大に敗れ準優勝に終わる。
- 駅伝 2020年全日本大学駅伝は5位、2021年の新春箱根駅伝は上位成績が期待されましたが、往路は12位と想定外の展開、復路の追い上げにより総合6位と健闘し、シード権獲得。
- ヨット部 2020年全日本学生選手権では470級、スナイプ級、総合で6年ぶりの完全優勝を果たす。
- 漕艇部 2020年全日本インカレでは、女子が3種目に優勝、1種目準優勝し、総合優勝(3連覇)を果たす。
- スキー部 2020年全日本大学スキー選手権では、女子クロスカントリーで優勝、総合優勝とあわせて2冠に輝きました。



2020年秋の早慶戦 (左：外野席は無観客、右：内野席は入場制限12000人)

秋のハイキング報告

幹事 児浦義文



早川城址公園にて

□昨年春のハイキングはコロナ禍で中止となった為、1年振りの開催となりました。しかし、コロナによる自粛の影響もあり参加者は6名にとどまりました。

海老名駅に午前10時に集合し、バスに乗り城山公園で下車、ここからがハイキングのスタートです。ハイキングの道案内は本会随一の健脚人である渡辺さん(副幹事長)が努めてくれました。□城山公園は早川城址公園ともよばれ、鎌倉時代に綾瀬市一带を治めていた幕府の御家人「渋谷一族」の居城跡とのこと。公園内を散策し、現存している土塁、堀切、物見塚、

曲輪跡を始め、園内の大きな銀杏の木やバラ園も見学しました。

公園を出た後は、付近を流れる目久尻川沿いの歩道(ここはサイクリング道路となっているが現在は使われていない様子)を散策、綾瀬の田園風景を眺めながら、途中にある臨済宗の済運寺で休憩、

ここは春日局の位牌が安置されているという名寺だそうです。その後、綾瀬市名物の高座豚のハム工場を横目に見ながら、販売所には立ち寄り土産を買いました。

更に川に沿って暫く歩くこと30分、高台にある神崎遺跡公園に到着しました。ここは弥生時代後期の環濠集落があったところで、集落には東海地方から舟で移住してきたという人々が暮らしていたそうで、当時の竪穴式住居2棟が再現されていたり、幾つかの住居跡(土台)や住居を囲んで環状の濠(お堀)が発掘されて見学できる。大和市の近くに、こんな古の古跡があったことを知り一同驚いた次第である。隣接して資料館があったので、立ち寄って見学した。

帰路は、資料館からバスで海老名駅に向かう。海老名駅では、駅前に建つ相模国国分寺七重の塔のミニチュア(1/3縮尺)の塔を見学した後、近くの蕎麦屋に入り、遅めの昼食を摂った。散策の疲れた後で、喉潤いと蕎麦の味は格別であった。綾瀬市は大和市の隣市であるが、参加者一同早川城址、神崎遺跡など、どれも初めての訪問。近くにこんな歴史が残っていることに感激し、話は弾み、楽しい一日となった。



神崎遺跡公園にて



散策中も全員マスク

秋のゴルフコンペ報告

幹事 小澤 重晴

2020年11月19日(木)稲門やまと恒例の秋のゴルフコンペを東名厚木カントリー倶楽部で開催しました。

コロナ禍の中、開催するかどうか迷いましたが、倶楽部の情報では「感染防止対策は完璧に実施してます」とのことでしたので、開催する決断をしました。

3組、12名(ゲスト4名)の参加のもと、晩秋としては温かい気候にも恵まれ、日頃のコロナストレスを忘れ、楽しい一時を過ごすことができました。



スタート前の参加者

優勝 : 内良さん
 準優勝 : 眞鍋さん
 3位 : 橘川さん

参加者(敬称略)

石川、岩本、眞鍋、菟場、渡辺、関根、小澤、橘川
 内良、南舘、伊藤、加々良



プレー後の懇親会

会員の投稿コーナー(コロナ禍での過ごし方)

多くの稲門会活動が中止される中、今回は会誌「稲門やまと43号」を是非とも発行したい、との声が会長はじめ会員の中から湧き起こりました。しかし、多くの行事・イベントや活動が中止される中で、紙面に載せる記事が足りません。そこで、今回の第43号は、特別企画として、活動自粛の中で多様な過ごし方をしておられる会員に投稿を依頼したところ、多くの会員から様々な投稿が届きました。皆様の力作をお楽しみ下さい。

戻れないんだよ

石川公弘(S32 商学部卒)

万事自粛のコロナ禍の世の中だが、毎月最終金曜日の午後、必ず開かれる湘南高校同期のカラオケの会がある。同期だからだれもがそろそろ米寿である。少人数だが皆、子供の頃教会の聖歌隊にいたとか、高校時代はコーラス部にいて全国大会に出場した経験があるとか、全員譜面の読めるエンジェルボイスの持ち主である。時々、混成でハモったりする。歌う歌も総じて、品のある歌が多い。

そんな会へ元気を買われて、譜面など読めない「ど演歌」が持ち歌の私も参加するようになり、逆に調子の違い?を歓迎されている。入ってみて知ったのだが、この会には厳しい掟があった。自分の歌はもちろん真面目に歌うのだが、他人の歌も必ず聴くこと、歌い終わるとすぐ次を登録すること、時間を無駄にしないのである。欠席者がいようものなら、たいへんだ。一日14~5曲も歌うことがある。中曽根康弘元総理の名句、「暮れて尚、命の限り、せみ時雨」の状況である。だから時々、全く知らなかった歌を聴くことがある。

先日も、真面目とユーモアを適度にミックスした同期が歌った松尾和子の「夜が悪い」には大笑いしてしまった。人柄と歌の文句が、あまりにマッチしていたからである。

「愛すると言ったのはあなた、愛されたのは私、抱きしめたのはあなたで、許したのは私、誰も悪いんじゃない 夜が、夜がわるいのよ」



そんなわけで、私も演歌の新しいレパートリーを探していたら、今の年齢にぴったりの歌に出会った。鳥羽一郎の「戻れないんだよ」である。知っている方もいると思うが紹介する。「昔の女は、探さないがいい。会えば空しくなるだけさ。男と女の仲なんて、所詮、男が悪者でいい。心を焦がしたあの日には、戻れないんだよ。戻れないんだよ」

2番を抜かして3番へ。「失くした夢なら、そっと眠らせろ。過ぎた月日に乾杯だ。人生、誰もが寂しさを、胸に抱いて明日へ歩む。輝く眼をした少年に、戻れないんだよ、戻れないんだよ」。

ほんとにそうだ。戻れない。進むしかない。もしかすると行く先は、真つ暗闇の世界かも知れないが、明るい明日を信じて進みましょうよ、ご同輩。

コロナ禍の巣ごもり生活

加藤晴夫 (S48 理工卒)

2020年はコロナで明けて、コロナで暮れた1年でした。この間の私の過ごし方を記します。

- ・飲み会(懇親会)は2月に行った1973年入社時の部署の懇親会を最後に、他の飲み会は全て自粛しました。この部署は当時としては新部門でCATVを利用して住宅の情報管理を行ったもので今は実在しませんが、懇親会は当時のメンバーで継続して2回/年行っているものです。
- ・5月予定の海外旅行は3月に予約をキャンセルしました。国内旅行も含めて大和市以外への外出はほとんどしませんでした(例外は北里病院、町田のデパート)。
- ・趣味の将棋は今では自身で対局はしませんが、ユーチューブでプロの棋譜を選択して見ていました。特に藤井聡太二冠(17歳)の対局はほとんどABEMAでライブ中継されますので(棋士の解説、AI最善手予想付)、1日(タイトル戦によっては2日)観戦を楽しんでいました。
- ・庭木の剪定、消毒、草取りは、従来は遅れてやるが多かったが、先手でおこなうように心がけました。5月のチャドクガの消毒、夏場のこまめな草取り、秋には大きくなりすぎて気になっていた柿の木の太枝を鋸で切断しました。
- ・パソコンの老朽が進みタブレットで代用していましたが、WiFiが不調になることが多くなって

きていたので、10月にノートパソコンを新規購入しました。セットアップ、立上げ、アプリの使い方等をメーカーや代理店に繰り返し質問して12月に一応使えるようになりました。結果として大和稲門会のホームページ作成、ZOOM会議に使用することができました。

- ・健康維持のために家の周辺の散歩を行うことを心がけました。目安は3回/週、1時間(10,000歩)/回としています。
- ・初孫娘の3歳のひな祭りを春に、秋には七五三祝いを大和諏訪神社で行いました。コロナ感染防止のため、マスクをして3密にならないように注意して行いました。



孫娘の七五三のお祝い写真

趣味との出会い

遠藤 廣 (S32 商学部卒)

私の趣味は、娛樂みたいなもので、環境と時代の流れに沿って楽しみました。大学時代は、休講を使い雀荘に入りびたりでした。その後麻雀は、4人揃うと唯一の楽しみとして続けております。

最初の勤務は、東京中央郵便局でスケート、スキー、ダンスぐらいでした。スケートは、ホッケーのスケート靴で楽しみました。スキーは、20日の有給休暇を使って、長野、上越、蔵王等に出かけておりました。

ダンスは、高田馬場のダンス教室に通い、5・6人の仲間とダンスパーティによく出かけました。1度は、寮の仲間と池袋のドレメの講堂をお借りしてダンスパーティを開催し、余剰金で寮の洗濯機や野球道具を購入したこともあります。

山登りが好きでしたので、寮の仲間と日曜ごとに丹沢に出かけ、その頃は、コンビニはなく飯盒持

参で河原で炊飯し、時々女性登山者の弁当をいただき、殆ど地下足袋に藁草履の沢登でした。早稲田大学の友達と富士山に登山し、5合目の山小屋に1泊し、学生アルバイトと意気投合して多大なるサービスを受けたことが思い出されます。翌日は、早朝登山を開始し頂上の神社に到着した時の寒さは、忘れることができません。しかし、雲海の上でのご来光は崇高の一瞬でした。郵便局の山岳部に入部し、北岳三山を横断した時は、お花畑と雷鳥、バットレスの眺めは印象的でした。冬のハケ岳では、麓にテントを張り、アイゼンを付け早朝登山を開始し、雪解けのないうちに頂上に上がり、グリセイドで下山したときは爽快でした。お陰で地方に行っても歩くのは、苦痛になりませんでした。

東京郵政局に転勤し、庁舎を建て替えるため、大手町から近衛師団の兵営地であった庁舎に移りました。今の北の丸公園ですが、そこで先輩の指導によりゴルフを始めました。その頃は、物珍しさでやっていたましたが、その後郵政省に変わってから、ゴルフの付き合いが多くなりみんなと歩調を合わせるため、ゴルフ場に行くと2ラウンド回るほど練習に励みました。そのことが貝塚、広島、金沢、福岡の地方勤務でのゴルフによる交友に役立ちました。

子供の頃は、よく近くの川で鮎などを釣りに行きましたが、川越でしたので海には縁がなかったこともあり、大阪の貝塚郵便局に勤務したとき海が近く、釣り仲間に誘われるまま海釣りを始めました。船で岸和田の堤防に渡りヒラメを釣ったのが始まりで、その後和歌山方面に出かけるようになりました。次に広島中国郵政局転勤になると、釣り仲間も多く、瀬戸内海には、島が多く鯛釣りには事欠きませんでした。隠岐の島に遠征したときは、鯛などでクーラー溢れんばかりの大漁でした。藻に掛かったと思ったらエイだったのには驚きました。福岡では、職員が船を持っていたので近海でのキス釣りが多かった。唐津の福島で生簀の近くの釣りでは大きな真鯛が沢山釣れました。その他長崎の九十九島や五島列島など釣り場には事欠きませんでした。鹿児島県の友人の案内で、1時間程離れた硫黄島での釣りでは、鯛の尾長やブダイという珍しい魚を釣りました。

広島は、中国郵政局の厚生課長でしたので、レクリエーションの行事が多く、全国スキー大会、管内のスキー教室、登山教室、野球大会、美術展など主催しました。そういう点では、私の趣味は、大いに役立ちました。

広島では、焼き物の窯があり、菊揉みから手ほどきを受け、ぐい飲みから始め、茶碗、花器、徳利などを作成し、焼きあがると品評会での一杯が何よりでした。備前焼の大御所で早稲田大学英文科出の人間国宝の故藤原啓のお宅を訪問し、奥様のご案内で窯や作品などを見学させていただきました。広島での焼き物の出会いが、金沢でも陶芸教室に1年通いました。金沢は、九谷焼と大樋焼がありますが、越前焼も焼き締めのはみがありいい焼き物でした。

福岡では、高取焼の人間国宝の亀井味楽先生の教室で勉強できました。忘年会では、先生と杯を交わす機会に恵まれました。九州は、焼き物の宝庫で見学する窯元も多く楽しいところでした。有田焼、伊万里焼、唐津焼、小石原焼、桜島焼、沈壽官。

ゴルフは、サークルがあり盛んでしたので誘いも多かったです。福岡の中央区のVIPの集まりが毎月1回あり、その会でのゴルフ大会では優勝いたしました。

郵政省を退職して第2の職場は、東芝勤務でしたが、ゴルフが盛んでした。この時期に東名厚木カントリークラブ、中央都留カントリークラブ、修善寺カントリーのメンバーとなり、またOB仲間のコンペも多く70歳ぐらいまでは、年間60回ぐらいプレイしておりました。国内では、北海道から沖縄まで観光を兼ね各地のゴルフ場を回りましたが、天候さえよければ景観もよく健康的なスポーツであらうと思います。それに加え海外のゴルフも増えアメリカ(6回)、カナダ(4)、ハワイ(2)、オーストラリア(3)、サイパン(3)、グアム(4)、タイ(2)、濟州島(1)でプレイしております。ゴルフは、80歳を過ぎたころから、筋肉の減退を感じ、飛距離も減少してきたので86歳で止めることにしました。

囲碁は、退職後囲碁クラブやOBなどの大会に参加し、上達に励んでおりましたが、最近、外出できなくなったので、テレビ番組で勉強しております。

畑は、外出することが少なくなったので、運動として、また、朝起きると何を植え、何を収穫するか肥料をどうするかなど、頭を巡らすので、頭の体操にもなるし、収穫の喜びもあるので、体の動く限り続けたいと思っています。

油絵は、郵政省にいた時、係りの先輩に誘われるまま始めたのがきっかけで、昔を思い出し絵の教室に通い楽しんでおります。

趣味との出会いが沢山の楽しい思い出を作ってくれました。



左の絵画(モンサンミッシェル寺院、フランス)

右の絵画(ウスペンスキー大聖堂、ロシア)

焼き物は陶芸教室での筆者作品

私のゴルフ人生

菟場 直一 (S39 理工卒)

このコロナ禍で、巣こもりしながら、永年の課題であった書類の整理、「断捨離」に取り掛かることになった。長い間、押し入れや本棚で眠っている本、書類、写真を引っ張り出していると、その中に、ゴルフコース案内、ゴルフコンペ案内、スコアカード、ゴルフ仲間との写真等ゴルフに関する色々な沢山の書類が出てきた。それを見ている内に、わが人生の1ページとして、又、ゴルフの履歴書として、纏めてみる気になったのである。

「たかがゴルフ、されどゴルフ」

今も鮮やかに覚えている。あれは、レイク霞CC、136ヤード池越えのショートホールだった。その時なぜか無心に打った。ヘッドがスーッと抜けた感じで、ボールを打ったという抵抗感がなかった。ボールは、グリーンで低くワンバウンドしツーバウンドしている。ボールが旗に向かっていて、いい方向に打てたなと思った時、ボールが視界から消えた。1982年(昭和57年11月13日)最初で最後のホールインワンだった。今も、その時のホールインワン記念のフラッグが私の書斎の片隅に大切に飾られている。

あれから39年経つ。数限りなく思い出がある。不思議と快晴の日のことは記憶に少ない。強い風の日、土砂降りの雨の中、そして粉雪の舞う日、小さなひとつのボールに、大きな喜怒哀楽を共にし

て、人生と同じように私はコースに挑戦してきた。だから、ゴルフはもうひとつの私の人生といえるかもしれない。

コースは個性に溢れている。油断をするとひどい目に合う。だが、真面目に取り組むとうれしい答えをくれた。そう、どこか友人に似ている。ゴルフを通じてなんと多くの友人を得たことか。時には憎いゴルフ敵だったが、みんないい奴ばかり・・・。仕事で四面楚歌になった時も、彼らとゴルフすることでどれだけ慰められてきたことか。

そして、一人ひとりが人生の師だった。今、ゴルフの最上の美德に、私はゴルフの仲間を上げることに躊躇はしない。

あと何年ゴルフが出来るだろうか?・・・、若いころ、仲間との酒の席で、

「俺は80歳までゴルフをやる」と豪語していたが、もうすでに80歳を超えた身となった。

詩吟は吟声が出るようになるのに、20年掛かるといわれている。詩吟と同様に、ゴルフも後6年、頑張りたいものである。



新型コロナ禍と STAY HOME 生活

村岡 猛 (43 年理工)

1. 始まりはダイヤモンド・プリンセス



最初に新型コロナ(中国・武漢の生鮮市場で発生といわれている)を意識したのは、昨年

(2020年)1月20日に横浜港から出港し、2月5日に横浜に帰港したクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号船内の乗客の集団コロナ感染という報道からでした。

この集団感染は船内での隔離や医療従事者のクラスター対策等により、なんとか鎮静化し3月1日には全員が下船して終幕となりました。ダイヤモンド・プリンセス号には3,711名の乗客・乗員がい

て、集団感染した人は712名、亡くなった人は13名との報道でした。

私がこの1ヶ月間の出来事から学んだのは、新型コロナウイルスの感染力の強さと、我が夫婦のように持病を持つ高齢者にとっては、重症化し易いという怖さでした。

2. 日本国内での感染と自粛生活の始まり

国内での集団感染は中国からの観光客が多い北海道(2/4~2/11:札幌雪まつり)が最初でしたが、またたく間に東京、愛知、大阪の大都市圏を中心にクラスターが発生し、更に感染経路不明の患者も増えていきました。この頃からわが家では出来るだけ不要不急な外出は避けるようになりました。

3月半ばには、マスコミでも3密(密閉・密集・密接)を避けましょうと盛んに取り上げるようになって4月7日には政府から「緊急事態宣言」が発出され、わが家でも本格的なSTAY HOMEの生活が始まりました。

3. 生活形態のチェンジ

私は元来外出好き人間であり、現役リタイア後は大学OBの趣味仲間との旅行、写真撮影、ハイキング、さらにカラオケ集い等で楽しみ、夫婦や家族での国内外への旅行をする等リタイア後の生活は充実していました。しかし外出を避けSTAY HOME生活の始まりにより、大きく変化する事になったのです。

先ず最初の変化は、3密を避ける為趣味仲間との打合せや会議が、室内の対面会議からZOOM利用のリモート会議に変化したことです。

10名以上の仲間との会話にもZOOMは使い勝手が良く、密も避けられます。特に最近では「感染症(広がり方と防ぎ方)」のグループ読書会もZOOMで行っています。

2番目の変化は、パソコンのオンライン講座を多く受講するようになったことです。従来は年に2～3コース(1コースが約1ヶ月)でしたが、最近では毎月新コースを受講しています。

そして3番目の変化はニンテンドーのテレビゲーム「あつまれ どうぶつの森」で遊ぶようになったことです。小・中学生のお孫さんをお持ちの方はご存じと思われますが、実に楽しいゲームでSTAY HOMEの癒しになっており毎日が退屈しません。皆様も是非一度何処かで体験されることをお勧めします。



「あつまれ動物の森」の1コマ

4. 新型コロナウイルスの収束へ

既に新型コロナウイルスの流行から一年が過ぎようとしています。医療体制の逼迫は続いています。治療薬やワクチンの開発に曙光が差してきたように思われます。医療従事者へのワクチン接種が2月中旬から、そして順次高齢者から若者まで何とか無事に接種がすすむように期待します。新型コロナウイルス収束後の生活様式がどのようになるのか、今から想像は出来ませんが、アフタコロナに対応できるよう、私なりの準備はしておこうと新たに決意しています。

大和稲門会の賛助会員になって

賛助会員 佐竹育子

私が大和稲門会にご縁を頂いたのは、市民劇団演劇やまと塾の水野昂子さん(大和稲門会副会長)の紹介でした。

約10年前の本公演のワンシーンに台湾少年工のストーリーを取り入れることになり、大和稲門会会長(当時)の石川公弘氏の監修を受け脚本が出来上がりました。演目名は「そのまんまそのまんま」、史実に基づいた台湾少年工の話を聞いた時、戦時中に、このような出来事がこの大和の地で起こっていたという事に深い驚きと感動を覚えました。

私は、いつかは台湾少年工にスポットを絞った劇を作り、公演したいと常に思っていました。あれから10年を経た一昨年の9月に、石川公弘監修、水野昂子脚本による演劇「あの夏の日」を公演することができました。このことが大変嬉しく、今もなお、その達成感を感じています。

それ以降、皆さん誰も同じだと思いますが、コロナ渦中で何も演劇の活動ができていません。時間が止まったような、時が止まったような・・・そんな思いです。

さて、本題に戻りますが、ある時稲門会のメンバーである水野昂子さんのお誘いを受け、「大和稲門会カラオケ会」に出席させて頂きました。数名の殿方が談笑されていました。初めての参加で少々緊張もありましたが、皆さまとても親切で、ジェントルマン。私は歌う事が大好きなので、直ぐに打ち解けることが出来ました。そして、いつしか月一回のカラオケ会を楽しみにしていました。



公演終了後稲門会の皆さんと撮影

若かりしあの頃に戻っての熱唱。最後に、母校の校歌を歌っての解散です。歌っているうちに、ひょっとして、私も有名な早稲田大学を卒業したかのような、錯覚さえ覚えました(笑い)

ある時は、ハイキングの会にもお誘いを受け参加しました。またそれ以前、台湾高座会留日70年歓迎大会にも出席し、それに伴っての台湾訪問もさせて頂きました。その時の多くの方々が稲門会のメンバーでした。

そんなこんなのが経ち、一昨年、賛助会員制度が出来た旨を知らされ、すぐに入会させていただきました。これまでの稲門会との付き合いからしますと遅すぎたくらいの入会でしたが、これからも皆様方と一緒にこの会で楽しめたらと嬉しく思います。

今はコロナ渦中で、緊急事態宣言も3月21日まで延長され、すべてが活動自粛となっています。

早くパソコン・ゼミや詩吟同好会にも参加できるようにと願いつつ、私なりの自粛生活、ステイ・ホームの日々を過ごしています。



参加者で「都の西北」を合唱

「あの夏の日」以降の やまと塾の活動

水野昂子 (S35 文学部卒)

あしかけ2年にわたるコロナ禍の影響により、やまと塾の公演活動は限定されたものになっている。昨年の春と夏の公演、そして今年の春の公演は中止となった。

□舞台公演もなくなり、施設ボランティアにも行けなくなり、その間I・M講師による脚本講座を受講。塾生が自分なりの脚本を書いて、ご指導を受けたり作品について、話し合いを重ねたりしてきた。しかし、準備運動も静かな動きに限定され、いかにコロナの異常事態宣言中とはいえ、稽古場の封鎖や歌やダンスレッスンの中断は寂しいものがある。

そんな中で、嬉しい出来事があった。それは、大和市文化芸術賞の受賞である。この賞は、市の文化芸術振興条例に基づき毎年実施されているが、市の文化芸術振興に長年にわたり貢献した人や団体に贈られる。そして、2020年の大和

市「文化芸術振興賞」に演劇やまと塾が選出されたのである。演劇大和塾は2005年の発足以来、市を題材としたオリジナル演劇を多く公演し続けたことが認められたのである。塾生一同は嬉しく「乾杯」の気分であったのが、コロナ禍ではそれも出来ないのが残念だ。

□表彰式は昨年11月5日に大和市役所で関係者だけで、ひっそり行われた。やまと塾から、新会長のT・Mさんが出席し、大木市長から表彰状、盾をいただいた。塾生一同、なによりも、公演活動を継続してきたことが認められ嬉しく思ったことであつた。

公演活動は、送り手(出演者、スタッフ)と受け手(観客)があり、その両者が同じ空間で、何かを感じとった時に起こるある種の心の動きや揺さぶり。それを各自の「感動」というのではないかと思う。

やまと塾が、多くの観客の支持を受け、大きい拍手をいただけるような、良質な芸術活動を今後も続けて行きたいと思う。

今年、保健福祉センターホールを9月に予約してあるのだが、舞台公演が可能になるかどうかは、一にコロナ感染拡大の収束にかかっているのである。無事舞台の幕があがる時、変わらぬ応援をお願いしたいと切に願う。



庭 師 誕 生

中西 剛 (S56 政経卒)

Covid-19に伴う自粛で皆さん暇を持て余していたかと思いますが、早稲田の先輩たちは飲み会にはいつも通り参加されているかもしれません。私の知っている先輩は92歳と70歳ですが、毎日飲み歩いています。私も何度かご一緒させていただきました。とは言え一年前の私自身は自粛に入り、銀行借入金を迅速に計画実行して補助金申請。



外見は庭師

週一の朝飯前の仕事で16時間断食も20時間断食となる事もあり、代謝が糖質メインから脂質利用に変わったため食後に眠くなるグルコーススパイクも少なくなり隠れ糖尿病も撃退したかと思われま。

食事についてはココナッツオイルや亜麻仁油やオリーブオイルを多用するようになってから数年経過、10年前に居間の応接セットを撤去してランニングマシンを設置して毎日15分の～30分利用、日曜日はNHKの「日曜美術館」観ながら1時間ウォーキング、飲料水は硬水のビッテル中心にして30年、健康のためなら死んでも良い生活習慣を継続しています。



健康食材で一杯の食卓

本来であれば令和2年がWaseda Alumni's Sports, Exercise, Daily Activity, Sedentariness and Health Study (通称: 早稲田大学校友を対象とした健康づくり研究)の二回目にあたり、所沢での無料診



手入れ後の我が家の庭

断と一週間の行動記録に対するアドバイスを受ける予定でしたが、延期との通知が一度有ったきり未だ音沙汰なし。普通の人間ドックに行ってみようか迷いましたが、ガーデニングや生活習慣改善のお陰で前回よりも健康になっているはずと思いますので早稲田からの連絡を待っています。

暑い日は毎日の水やりも寒くなると週一になりますが、冬用ハイポネクスなど栄養にも気遣いしながら、毎日草花の御機嫌伺と花芽摘みを楽しんでいます。もともと我が家には野生の百合が咲いているので球根類にも挑戦して幾つかが芽を出してきました。醍醐の枝垂れ桜に思いを馳せながら我が家の春が楽しみな今日の頃です。

新型コロナ禍を契機として 渡辺伸明 (S47 理工卒)



瀬谷の鎌倉古道の並木

私の日常ですが、ここ1年間、新型コロナによって様々な地域イベント、各種団体の総会や会議、懇親などほとんど中止若しくはキャンセルとなって、スケジュールがガラ空きとなってしまいました。

そんな中で、皆さんも新型コロナによる活動自粛期間を、今まで出来なかったことをやる良い機会と捉えて、様々なことにチャレンジされていることと思います。私も、書籍や資料等の断捨離、川沿いウォーキング、新しい料理の挑戦などを行ってきました。特に川沿いウォーキングは、3密を避けながら、体力作り、ストレス発散、地域の歴史文化の再発見、魅力的な空間発見、地理的位置関係の把握などができるため、昨年の5月以降、積極的に取り組んで来ました。

具体的には近隣市の境川の支流の和泉川、宇田川、引地川の支流の比留川、蓼川、相模川支流の目久尻川などの源流から合流点まで全て踏破しました。また、中津川の上流域、相模川の河口までの下流域、金目川や酒匂川の一部など少し遠征してウォーキングしました。以上

の川沿いウォーキングによって体験したトピックスを挙げたいと思います。

最初に境川、和泉川辺に立地する左馬神社(佐波、鯖などの名称もある)の12社を全て訪れたことです。名前の由来は源頼朝の父親・源義朝が左馬頭(さまのかみ)だったためという説が一番有力なのですが、義朝ではなく源氏の祖といわれている源満仲を祭っている神社も3社あるとのこと。古来より疱瘡、麻疹、百日咳などの疫病が流行った時に、一日で七社のサバ神社に参拝し息災を祈る「七サバ巡り」「七サバ参り」なる風習があり、新型コロナウィルスの流行により、注目を集めている神社です。大和市内には私の住む桜ヶ丘と、高座渋谷の2か所があります。

2番目に、左馬(サバ)神社以外にも、川沿いには多くの歴史文化遺産が集積していることです。特に目久尻川沿いは、綾瀬市が令和2年3月に「あやせ目久尻川歴史文化ゾーン構想」を策定しましたが、流域には国指定史跡の神崎遺跡(吉岡)、県指定文化財が出土した吉岡遺跡群(吉岡)、早川城址など、数多くの遺跡が集積しています。さらに河口近くに足を延ばせば寒川神社もあります。また、境川から東側100メートルを川に並行して通る鎌倉古道が瀬谷区にあります。この古道は日枝神社の樹齢360年のケヤキや神社林、屋敷林、街路樹など樹齢200年以上と思われるケヤキの大木が林立し、「ケヤキロード」と呼んでも良い趣のある古道です。また、明治初期に設立された「瀬谷銀行跡」もありました。

3番目に思わぬ景観に遭遇することです。川沿いウォーキングで数多くの素晴らしい景観に出会いましたが、思わぬところで思わぬ景観に出会った場所として宇田川沿いの「まさかり淵」を挙げます。

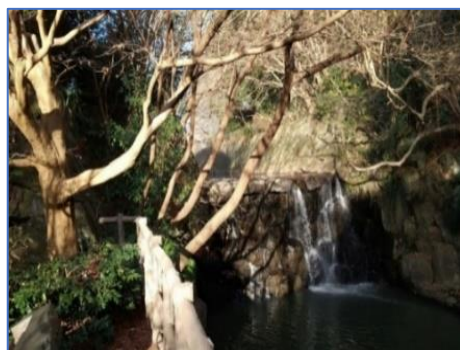
以上掲げたのは代表的な例ですが、新型コロナ禍を契機として川沿いウォーキングに積極的に取り組めたことは、地域を見つめ直す良い契機になったと感じています。



桜が丘の左馬神社



瀬谷銀行跡



まさかりが淵

私の海外旅行(1)

瀧本 幸男 (S39 理工卒)

(1) 初めてのアメリカ (1968年)

私の中学生時代は雑誌「リーダーズダイジェスト」などの記事を読み、アメリカ旅行に憧れていました。でもそれはずっと先の夢の話だと思っていました。これはそんな昔の思い出話です。

早稲田大学卒業後に入社した日本電気(NEC)では中央研究所に配属され、最新の技術であるPCMデジタル通信の研究をしました。研究といっても既に米国のベル電話会社の研究所から基本的技術は発表されており、私はそれを後追いで勉強することでした。

入社の前年(1963年)には太平洋上の通信衛星によってJ.F.ケネディ大統領が暗殺されたというニュースが翌朝のTVニュースで放送されるということがあり、衛星通信時代の到来を予見する出来事でした。私の入社したこの年は東京オリンピックが開催される年であり、日本での競技の様子が世界に同時に伝えられました。この時の通信方式はアナログ方式でした。

当然のこととして次の時代の伝送方式はデジタルになるだろうことが予測されました。私たちはデジタルの衛星通信方式を実用化させることが必要であるとの結論に達しました。デジタルにすると歪なくチャンネル数を増やすことができるという素晴らしい利点があるのです。

丁度同じ時期に電電公社(当時)電気通信研究所でも同様のことを考えており、私たちは共同で研究し実用化の実験をすることになりました。理論・方式については私が居る研究室の金子尚志主任(後にNEC社長)が検討し、またそれを実際に装置にするのは私の仕事となりました。すべての装置はデジタル回路で実現しますがその当時は超高速で使える集積回路ICは世の中にはなく、半導体事業部へ一人で開発依頼に行きました。その時の先方の主任さんが後にNEC名誉顧問となった佐々木元さんでした。

装置のブロック図から詳細な回路図に落とし込み、私の他にその年に入社した新人と二人で組み立てることになりました。装置を使い易く操作するための操作パネルなども自分で設計しました。このようにしてデジタル系は完成しました。一方で衛星無線装置系や安定なクロック発振機はすでに他のアナログ通信機で使用しているものがそのまま使えるということで、全体3局分の装置をまとめることができました。

3局分の簡単な総合テストは社内の工場ですが、実際の通信系では地上装置から静止型通信衛星までの距離(=遅延時間)が大きく、かついろいろに変動します。この変動は衛星までの遅延時間の変動としてうまく追従させることが必要で、そのために衛星までの往復時間0.3秒を含む自動制御系として解析し、ゆっくりとかつ大きな量まで追いかけることが必要でした。時間の精度でいうと、0.3秒の時間遅れのある中で0.000001秒の精度で制御することが必要でした。

自動制御系の文献にはこのような難しいことを記述した文献は見つかりませんでしたので、このような新しい自動制御系が正しく動作することを解析しかつ実験することも目的の一つでした。3局分の装置を使い実験室レベルでは上手くいったので、次は地球から3万6千キロ離れたNASAの衛星を使って実際に実験し証明することでした。

(2) 初めての飛行機

海外旅行は私たち2名の実験要員は勿論初めてのことで、引率の1名も海外2回目だった。160人乗りのボーイング707の搭乗口へのタラップを登るときは見送りの人たちのことなどすっかり忘れ、よく写真にある振り返って手を振るなどもしなかった。やがて機は飛び立ちやっとなど落ち着いたところに機内食が出てきました。たしかステーキが出されたのですがとても美味かったという記憶があります。

アンカレッジで給油し、サンフランシスコに到着。その晩は夜景のきれいなホテルで食事。時差で眠れない夜を過ごした次の日の朝はトーストと卵焼きの簡単食でしたが、後から出てきた夏みかん(?)がとても甘く美味しかった。はじめてグレープフルーツを食したというこの経験も大感激ものでした。

ここサンフランシスコで1名の実験要員を残し、私と私の引率者は東海岸行きの飛行機に乗り継ぎ、今となってはどういう経路で飛んだのかハッキリしないが、ノースキャロライナ州の州都アッシュビル Asheville に降り立った。飛行機から見た下の景色は何だか赤茶けた大地が多く見えました。この空港でレンタカーを借りて US ハイウェイ 64 でロスマンという街へ行きましたが。なんと2時間もかかりました。そこではすでに Lowrens おばあさんから借りることになっていた一戸建ての借家に落ち着きました。

(3) ロスマン (Rosman) という田舎街

ここは100軒くらいが生活する小さな町でしたが、今現在のネット写真を見ると立派な小・中学校に大きなスーパーもあり、道路の交差点には信号機まで付いています。ずいぶんと大きな町に変わったものだと思います。しかし昔はあった教会が見えない。どうしたのかな? この街は南部の街の常としてアルコール禁止の街でした。唯一の飲めるところは教会の地下室で近くの人々が集まってくる集会所でした。コインで動作するしゃれたオートレコードチェンジャーも置いてありました。



写真左：ロスマンの街への現在の入口ゲート
右：夏休みには大勢の学生たちが岩の上で水滑りを楽しむ急流

米大陸の東海岸寄りに南北に大きく走るアパラチアン山脈(Great Smoky Mt's National Park)の麓にロスマンの街はあります。衛星通信の実験をする地上局は町からさらに1時間近く山に登ったところにあります。アパラチアン山脈は国立公園になっており、山から水量の豊富な谷川が街の傍を流れ落ちています。夏休みになると男の子も女の子も一緒に濡れた岩肌を滑り降りて遊んでいるのを目にします。

街にはレストランが一軒あるのみで、私たちは毎夕方にドラッグストアでサンドイッチなどを買い求めてから山の中腹にあるNASAの地上局へ向かいました。街の一軒だけのレストランも良く利用しましたが、メニューがステーキ専門で日本人には贅沢過ぎでした。そこでアルミトレイに食事一式が盛り付けられた冷凍のTVディナーをスーパーで買い求め、部屋のオープンで焼き食べることにしました。よく注文した本物のステーキは我々日本人の胃袋に丁度よい大きさの”RibEye Steak”でしたが、一度は試してみようということで”T-bone Steak”にも挑戦しましたが、が、その大きいことにびっくりでした。ゆうに縦横20cmはあり厚さも2cmもの大きさなのです。

ビールは禁酒法のこの街中では売っていませんので月に2,3回は隣の州まで車で買い出しに行きました。また土日は実験無しなのでどこかへ遊びに行きたいところですが、街にはボーリング場一つがあるだけで、そこも殆んど人は入ってなく本当に時間を持て余したものでした。

(4) 衛星通信の実験

NASA のロスマン局はアメリカ大陸の東端にあり、実験は日本時間の昼間に合わせるためにいつも真夜中の出勤でした。日本の鹿島局を親局とし、郵政省電波研究所の職員が実験を担当します。アメリカの西海岸から少し山に入ったモハーベ砂漠に第2局目、私が出張した東海岸は3局目になります。これらの3局でデジタルの衛星通信を実験しました。日本が昼間のときはモハーベ局は夕方、私のところは真夜中になるということです。

しかし、2か月近く経つ頃にNASAが新しい人工衛星を打ち上げるということになったのです。NASAの各局は打ち上げに協力をするために、我々の実験も含め一週間の休みとなります。それでこの休みに本物の打ち上げを見学に行きましょう、ということになりました。

私たちはノースキャロライナからフロリダ半島まで大きく南下します。途中には「風と共に去りぬ」で知られるアトランタがあり、ここも見学することにしました。現在のアトランタは五輪でもTV中継されたようにきれいな街になっていますが、私たちが通過した1968年当時はまだ昔の南部の様子が色濃く残っていました。

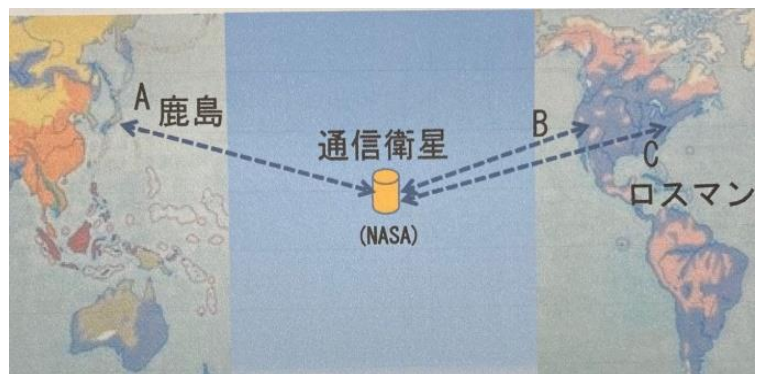
まず今にもスカーレットオハラが姿を現わすかと思うような白い壁と広いベランダが特徴の邸宅が道の両脇に建っていました。さらにダウントウンに入ってビックリしたことは、新しく造られた歩道がすべて2階の高さにあり、店や家の出入りは2階からとなっていることでした。もちろん車は1階を走ります。2,3カ所で買い物をしましたがそれも2階から出入りしました。

ロケットの打ち上げはフロリダ半島中程のケープカナベラルの基地から行われました。もう夕方になっていましたが、打ち上げ基地へ行くと大きなトーチカが複数あり、それぞれは管制塔と見学場所とに割り当てられていました。見学用のトーチカに入りじっと待っていると、突然、皆が一斉に出口へ向かうのです。英語のアナウンスが良く理解できなかった私たちも慌てて出口へと向いました。ゴォーという大きな音と地鳴りがしてきました。ロケットに点火されたのです。地鳴りが激しくなるとやがて眩いばかりの光の塊がゆっくりと上昇し夜空に消えていきました。打ち上げは成功しました。

さて、次の週からはまた我々の実験の再開です。右上の写真は私が設計・製作した一番複雑な機能を持つ自慢の実験装置でロスマンに置いたC局です。もう少し簡単な類似の装置があると2台あり、茨城県鹿島地上局Aとカリフォル



ノースキャロライナの
ロスマン局装置



実験の原理

A局：茨城県鹿島地上局 B局：カリフォルニア州モハーベ局
C局：ノースキャロライナ ロスマン局 S局：通信衛星

ニア州の東端モハーベ砂漠のB局に設置し、計3局で実験します。それぞれの地上局からの電波は通信衛星で増幅されて再度それぞれの地上局へ戻ってきます。このとき時間的に順序良く並んで増幅されることが重要で、技術的にきわめて難しいことなのです。

実験を始めて1か月もしないうちに、これは成功するということを技術者の感覚で確信しました。そこである晩のこと、実験要員の日本にいる家族を茨城県鹿島地上局Aに呼びよせ、この装置でアメリカにいる我々実験班と通話させようということになりました。その当時を思い出していただきたいと思います。国際電話は目の玉が飛び出るほど料金が高かったのです。それでこの企ては大成功でした。いよいよ私の担当する実験も最終段階に入りました。

(5) ハワイ旅行のご褒美

日本へ帰るときは是非ハワイへ立ち寄って見たいと思い、アメリカでの実験班を勤め、帰国する二人が会社へ要望を出しましたところ、多分実験成功のご褒美の意味もあったのでしょうか、OKが下りました。私たち二人は実験装置の回線で連絡を取りあい、ワイキキのホテルとかレンタカーとかの予約をしました。

ハワイ旅行が現実となり、ワイキキのバーで食べたフルーツカクテルの甘くて美味しかったこと、海に沈む太陽の輝き、ダイヤモンドヘッドを超えてオアフ島の裏側の海岸までドライブしたこと、街の土産店では日本語が通じたこと、すべてが良い思い出となりました。

新ホームページの作成

事務局長 小澤 重晴

新ホームページ作成

現在の大和稲門会ホームページは、QHMという作成ソフトを使っていましたが、ソフト開発者の都合により2019年3月より技術的サポートを受けられなくなりました。そこで当会では、新たにWordPressという世界的に利用されている汎用ソフトを利用して、新たなホームページを立ち上げることになりました。現在、下記メンバーでプロジェクトチーム(PT)を作り、指導者(竹崎洋一郎氏)の教えを受けながら新ホームページを構築中で、本年5月末の完成を目指しています。新ホームページ完成後も、暫く(1年間の想定)は、現在のホームページからの移行期間を設け、その後は現在のホームページは閉鎖し、新ホームページに一本化する計画です。

<PTメンバー> 小澤(リーダー)、児浦、村岡、加藤 アドバイザ(宮崎会長、瀧本副会長)

会 計 便 り

会計担当 児浦義文

1. 会費納入についてのお願い

会費納入につきましては、郵貯銀行振込票を同付しておりますので振込票をご活用ください。
銀行振込の場合は横浜銀行 中央林間支店普通預金口座 口座番号 1155943 に振込下さい。

2. 会費値上について

☆令和2年度より一般会員につきましては年会費を3千円から5千円に引き上げさせていただく予定

にしておりましたが、コロナウィルス感染症の影響から、会の主要な行事は自粛致しております。そのため、令和2年度分の会費につきましては従来通り3千円に据置させていただくことに致しました。

☆すでに令和2年度分会費として5千円納入戴いた方につきましては3年度分の会費納入の際、差額調整させていただきます(本来5千円の会費を3千円とします)。

☆令和3年以降の会費につきましては当初予定通り5千円に引き上げさせていただきますので宜しくお願い致します。

3. 会費納入者

☆令和2年度分(今年度)まで会費を納入いただいている方(3年度以降分も含む)。なお、令和2年度分として5千円の会費をいただいている方は、名前の頭に●表示をしております。

●中 晃 石川 公弘 石井 稔夫 岩本 武夫 遠藤 廣 遠藤三紀夫 大澤 善勝
 ●大澤 孝征 加藤 敬一 国方 隆 ●小坂 悟 ●小島 達之 児浦 義文 小林美佐子
 ●佐藤 逸郎 柴田 哲也 清水美加子 鈴木 信義 菅谷正一郎 関根 実 高田 博
 滝本 幸男 ●土橋 仁志 中丸 敬治 菟場 直一 古木 敏幸 保坂 保 町田 浩文
 眞鍋 藤正 ●水野 昂子 ●宮崎 顕 ●村岡 猛 遊佐 喜弘 横澤 和信 渡辺 伸明
 橘川 泰一 中西 剛 小澤 重晴 加藤 晴夫 杉山 充 ●池田健三郎 ●小林 晃
 藤川 千鶴 ●田村 幸雄 佐竹 育子 (小計45名)

☆令和元年度分までの会費をいただいている方。

大田 勝人 加藤 裕之 佐藤 洋子 三重野省二郎 田中 政弘 杉山光司 稲葉 紘
 (小計7名) 以上合計52名(匿名1名含む)

☆2か年を越えて未納の方には改めて文書にて納入をお願いすると共に、必要に応じて実情把握を兼ねて役員が訪問させていただく予定にしておりますので、その折は宜しくお願い致します。

☆会費納入についてのお問合せは 会計担当の児浦義文までご連絡ください。

電話番号 046-274-0628 携帯 090-9333-4479

Eメール koura0114@jcom.home.ne.jp

*****「編集後記」*****

この度は一年振りに「稲門やまと第43号」を発行する運びとなりました。新型コロナウイルス感染症の影響からほとんどの稲門会行事は自粛を余儀なくされ、稲門会活動に参加する機会が少なくなっていることから、今回は会員の皆様に投稿をお願いし多くの会員の皆様にご協力をいただきました。

コロナ禍の鎮静化までにはワクチンの本格接種を待たざるを得ない状況かと思われませんが、早く収束し東京オリンピックが予定通り開催され、日本に明るさが戻り、当稲門会も会員の皆様と一緒に活動できる日が来ますことをを期待しております。(編集人一同)